

平成28年版

労働経済の分析

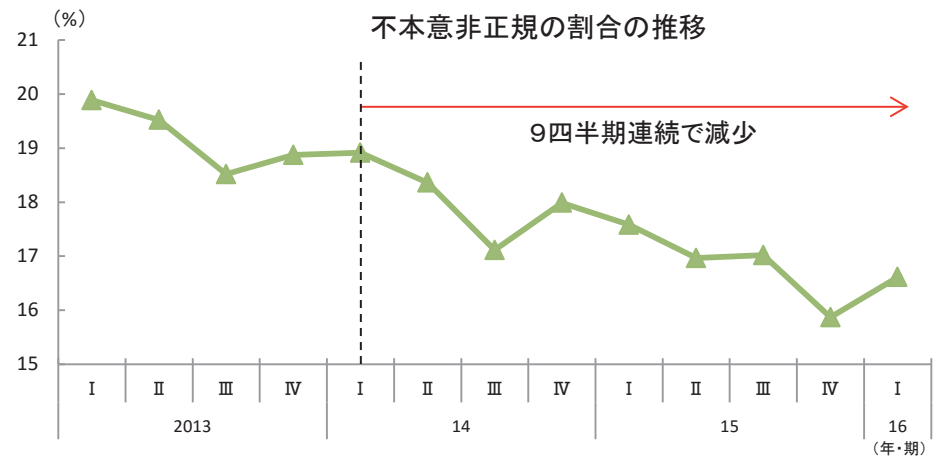
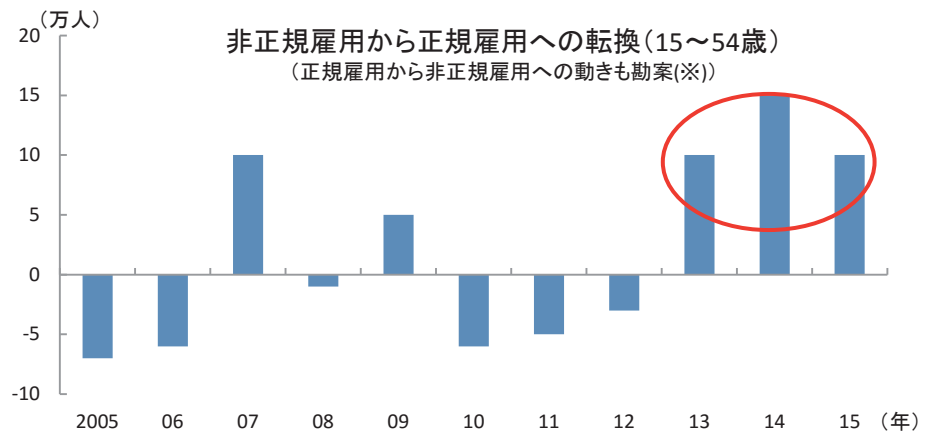
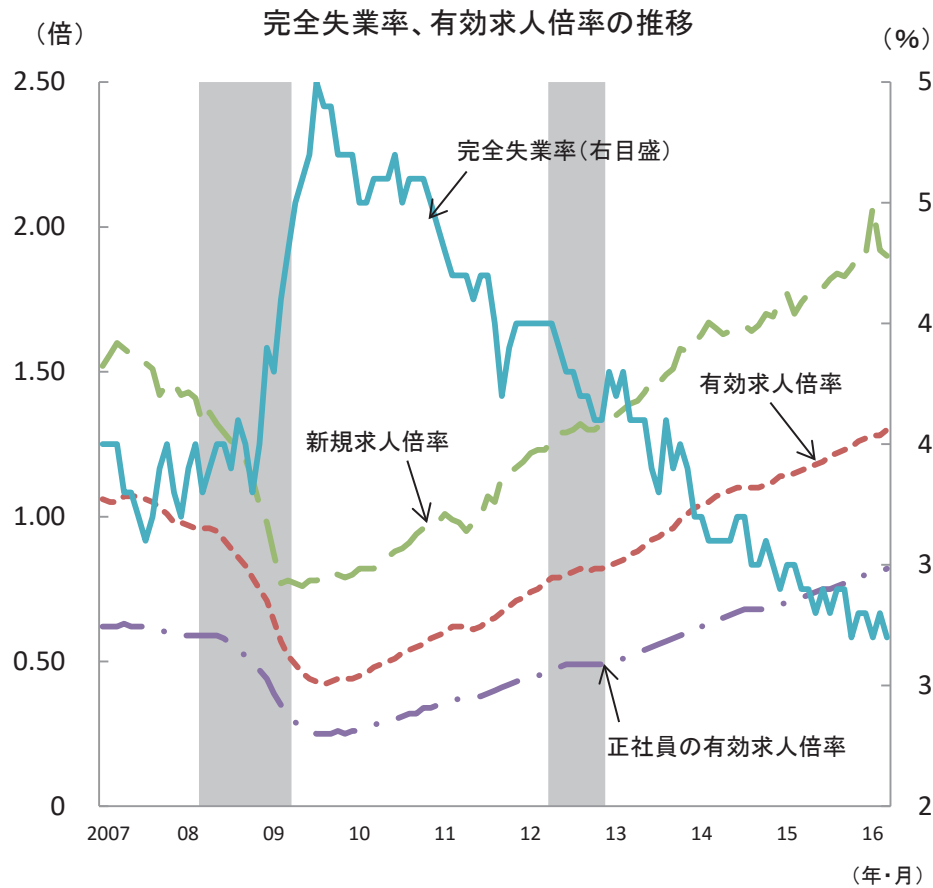
—誰もが活躍できる社会の実現と労働生産性の向上に向けた課題—

[概要]

第1章 労働経済の推移と特徴

－雇用、失業等の動向－

- 2015年度平均で完全失業率は3.3%と19年ぶりの低水準、有効求人倍率は1.23倍と24年ぶりの高水準となったほか、正社員の有効求人倍率が2016年3月に0.82倍と過去最高の水準となるなど、雇用情勢は着実に改善した。
- 非正規雇用から正規雇用への転換は2013年以降3年連続で増加しており、不本意非正規の割合についても、前年同期比で9四半期連続で減少している。



資料出所 厚生労働省「職業安定業務統計」、総務省統計局「労働力調査」、
「労働力調査(詳細集計)」より作成

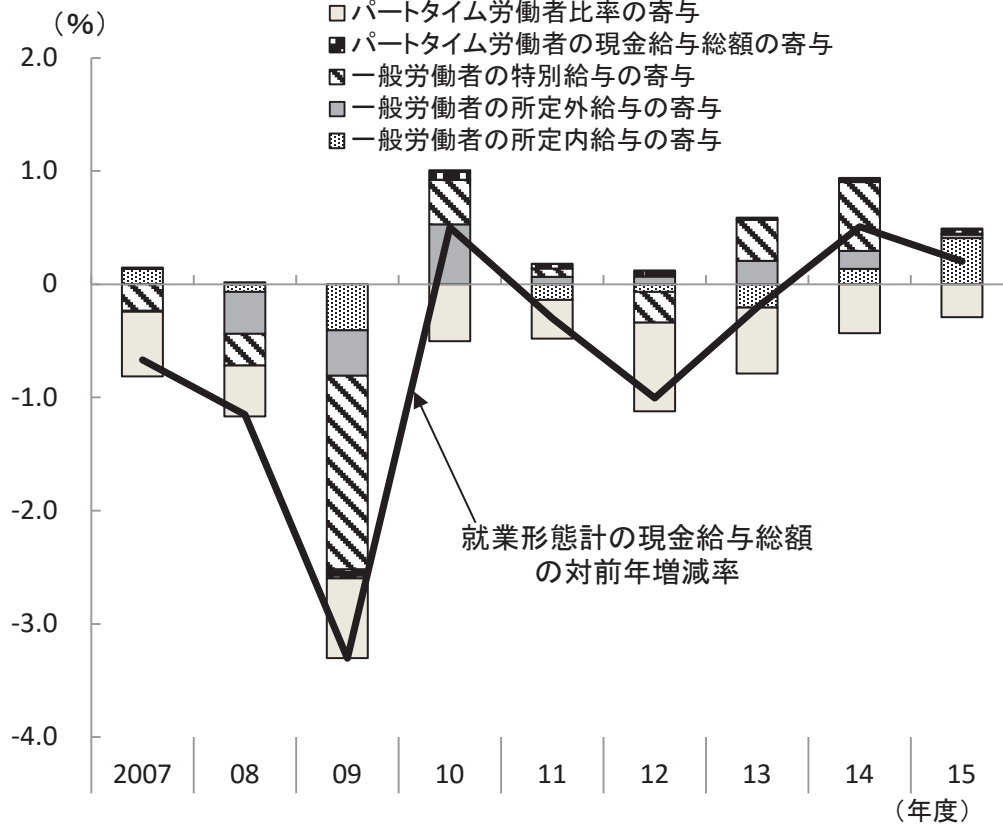
※「非正規雇用から正規雇用へ転換した者の数」から「正規雇用から非正規雇用へ転換した者の数」を差し引いた数

第1章 労働経済の推移と特徴

－賃金の動向－

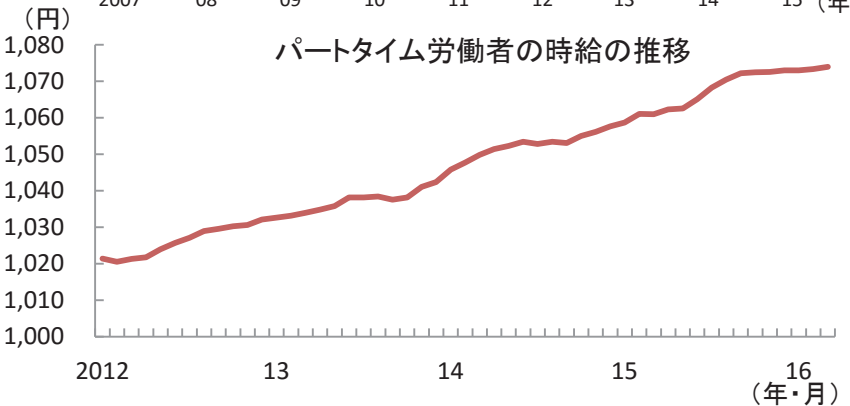
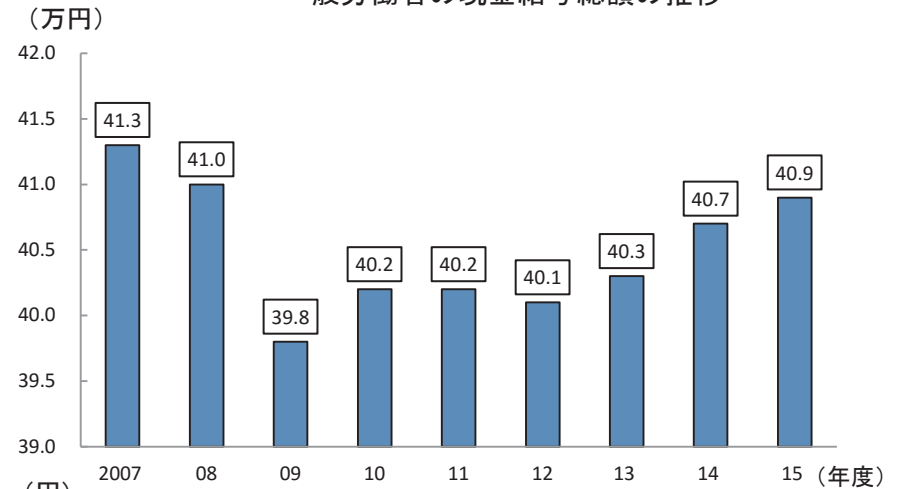
- 2015年度の名目賃金は、一般労働者の所定内給与の増加が寄与したことなどにより2年連続の増加となった。
- また、一般労働者の名目賃金は、3年連続の増加となり、パートタイム労働者の時給は、2015年平均で過去最高水準の1,069円となっている。

現金給与総額の推移



2012年度	2013年度	2014年度	2015年度
▲1.0%	▲0.2%	0.5%	0.2%

一般労働者の現金給与総額の推移



2012年平均	2013年平均	2014年平均	2015年平均
1,027円	1,038円	1,054円	1,069円

※年度平均は、2012年度1,031円、2013年度1,041円、2014年度1,055円、2015年度1,070円

資料出所 厚生労働省「毎月勤労統計調査」より作成